

オオミズゴケ ミズゴケ目ミズゴケ科
Sphagnum palustre L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



智頭町芦津 沖の山林道 2015.9.14 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：ミズゴケ類は湿原開発や園芸利用目的の採取により全国的に減少が憂慮されている。しかし本種はミズゴケ類では一番の普通種で、現時点では絶滅の危険度は小さい。

■**特徴**：世界中に分布する最も普通のミズゴケで、長さ 10 cm 以上になる。茎や枝の表皮細胞にらせん状の肥厚があり、枝葉は広楕円形で、横断面で葉緑細胞は狭二等辺三角形。湿った地上や湿地に生育。

■**分布** 県内：今回の調査では、鳥取市松上、江府町鏡ヶ成湿原、日野町久住で新規に確認され、鳥取市国府町菅野湿原、日南町印賀・岩樋山で健在が確認された。前回調査では若桜町氷ノ山で、その後 2015 年には智頭町芦津の沖の山林道や東山でも確認されている。矢田貝繁明氏からの情報によると、南部町大木屋にかつて生育していた群落は消滅したという。県外：全世界。

■**保護上の留意点**：湿原・湿地の保護。菅野湿原は県指定天然記念物・県環境保全地域。氷ノ山の生育地は国定公園特別保護地区内。また、ミズゴケ類は県内の国立・国定公園の特別地域内指定植物。

■**文献**：28.

執筆者：有川智己・西村直樹

コアナミズゴケ ミズゴケ目ミズゴケ科
Sphagnum microporum Warnst. ex Cardot

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



岡山県真庭市犬狹峠 2010.8.29 / 撮影：川合啓二

■**選定理由**：ミズゴケ類は湿原開発や園芸利用目的の採取により全国的に減少が憂慮されているが、生育地が限られる上に分類学的に難しく、識別が困難で研究が進んでいない。

■**特徴**：比較的大型。枝葉は卵形～卵状披針形でやや非相称、深く凹み、横断面で葉緑細胞は背腹両側で表に出る。透明細胞の背側に小さな孔が不連続に並ぶが、腹面にはほとんど孔がない。孔の縁は厚くならず、偽孔はない。沼沢地や湿地に生育する。

■**分布** 県内：八頭町郡家と西御門の間で 1950 年に採られたという標本が残されている（文献 27）が、前回の調査ではその付近も探索したものの、生育適地自体見つからなかった。倉吉市関金町犬狹峠の県境を越えた岡山県側には生育している。県外：北海道～九州、朝鮮、中国。

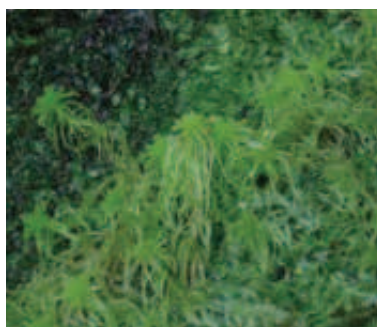
■**保護上の留意点**：湿原・湿地の保護。ミズゴケ類は県内の国立・国定公園の特別地域内指定植物。

■**文献**：27.

執筆者：有川智己

ホソベリミズゴケ ミズゴケ目ミズゴケ科
Sphagnum junghuhnianum Dozy & Molke. subsp. *pseudomolle* (Warnst.) H.Suzuki

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：情報不足 (DD)



日野町中菅 2020.9.15 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：ミズゴケ類は湿原開発や園芸利用目的の採取により全国的に減少が憂慮されているが、生育地が限られる上に分類学的に難しく、識別が困難で研究が進んでいない。本種は、限られた生育地ではあるが大量に生育しており、現時点での絶滅危険度は小さい。

■**特徴**：やや大型で褐色を帯びる。茎葉は二等辺三角形で先端は狭い切形。枝葉は横断面で葉緑細胞は三角形で、底辺が葉の覆面側に出る。水が滴る岩壁に生育。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町の余戸と尾際の間で 1953 年に採られた記録（文献 27）があったが、前回調査時、現地の国道沿いの岩壁で生育を確認することができた。今回の調査でも生育量に変化はなかった。また、今回の調査では、日野町中菅の茗荷谷の岩壁で矢田貝繁明氏が発見した大きな群落を確認した。江府町にもかつて生育していたが、今回・前回の調査では確認できていない。県外：北海道～九州、朝鮮、中国。

■**保護上の留意点**：湿原・湿地の保護。ミズゴケ類は県内の国立・国定公園の特別地域内指定植物。

■**文献**：27.

執筆者：有川智己

ハリミズゴケ *Mizugoke*目 *Mizugoke*科 *Sphagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hoffm.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町鏡ヶ成湿原 2012.10.5 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：ミズゴケ類は湿原開発や園芸利用目的の採取により全国的に減少が憂慮されているが、生育地が限られる上に分類学的に難しく、識別が困難で研究が進んでいない。本種の確認された生育地は安定しており現時点では絶滅の危険度は小さい。

■**特徴**：茎葉は舌状三角形で先端はやや鋭頭で鋸歯があり、腋は幅広い。枝葉は長卵形、横断面で葉緑細胞は三角形で、底辺が葉の背面側に出る。葉縁には3～8細胞列の腋がある。中～高層湿原の池塘に生育。

■**分布** 県内：2012年、矢田貝繁明氏の情報をもとに、江府町鏡ヶ成湿原で生育が確認されたが、今回の調査でも健在が確認できた。鳥取市百谷で1975年に採集された標本がある（文献27）が、現地には生育可能と思われる場所がないことを前回調査で確認している。県外：北海道～九州、朝鮮、中国。

■**保護上の留意点**：本種は主に水中に生育するため、湿原の水位が低下すると消滅する可能性がある。湿原・湿地の保護。ミズゴケ類は県内の国立・国定公園の特別地域内指定植物。

■**文献**：27.

執筆：有川智己・西村直樹

ウロコミズゴケ *Mizugoke*目 *Mizugoke*科 *Sphagnum squarrosum* Crom.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町芦津 沖の山林道 2015.9.14 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：ミズゴケ類は湿原開発や園芸利用目的の採取により全国的に減少が憂慮されているが、生育地が限られる上に分類学的に難しく、識別が困難で研究が進んでいない。しかし本種の生育地は安定しており現時点での絶滅危険度は小さい。

■**特徴**：木陰の湿った場所に、水に少し浸かって生育する大きめのミズゴケ。枝葉は広楕円形の基部から急に細く尖り、先端が背方にそりかえるため、特徴的な外観となる。胞子体をよくつける。

■**分布** 県内：2015年に坂田成孝氏の案内で、智頭町芦津の沖の山林道沿いと東山山頂付近で広範囲に確認した。坂田氏は、若桜町吉川の若杉峠でも2014年に本種の標本を採集している。今回の調査でも矢田貝繁明氏が芦津で新たに採集した標本を確認した。県外：北海道、本州、四国；北半球。

■**保護上の留意点**：生育する山林が乾燥化すると消滅の可能性がある。ミズゴケ類は県内の国立・国定公園の特別地域内指定植物。

■**特記事項**：この報告が鳥取県新産報告となる。近年、鳥取県東部に隣接する兵庫県香美町の瀬川山からも兵庫県新産として報告されている（文献13）。今回の産地とは20 km程度の距離である。

■**文献**：13.

執筆：有川智己

イシツチゴケ *Isitsuchigoke*目 *Isitsuchigoke*科 *Oedipodium griffithianum* (Dicks.) Schwägr.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



愛媛県岩黒山 2017.9.10 / 撮影：岩田和鷹

■**選定理由**：烏ヶ山の山頂周辺の1か所から報告がある。中国地方では本県からの報告が唯一のものである。前回・今回の調査で生育を確認できなかった。

■**特徴**：長さ3 mm程度の灰緑色で柔らかい葉が集まってつく茎に、高さ1 cm程度の胞子体が頂生する。卵形の萌は直立し、口環は分化せず、萌歯もない。夏でも冷涼な環境が保持される高地で、崩壊地などの岩隙や土上に生育する。

■**分布** 県内：江府町烏ヶ山山頂（文献16）。2020年の現地調査において確認できなかった。現地は陽当たりが悪く、生育不能と推察された。県外：北海道、本州、四国、北半球の寒冷地とフォークランド諸島。

■**保護上の留意点**：遊歩道の整備や樹木伐採などに注意が必要。

■**文献**：16.

執筆：有川智己・木口博史・岩田和鷹・西村直樹

クマノゴケ イクビゴケ目イクビゴケ科
Diphyscium lorifolium (Cardot) Magombo

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



湯梨浜町今滝 2020.11.19 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：渓流沿いの水のかかる岩上に生育するため、水質変化の影響を受けやすい。また、洪水や河川改修などによる影響も考えられるため、全国的に減少が懸念されている。

■**特徴**：水のかかる岩上に光沢のある黒褐色のマットを作る。葉には葉細胞の大部分を占める中肋があり、やや幅広い基部から紐上に長く伸び、長さは6-12 mm、乾くとゆるく内側に曲がる。内雌包葉の鞘部の上部には屈曲する透明な長い毛が密生する。蒴はイクビゴケに似て非相称で約5 mm。

■**分布** 県内：智頭町・若桜町・鳥取市国府町・湯梨浜町・日野町より知られている。今回の調査では若桜町細見川で新たな生育地を確認した。また、智頭町芦津溪、湯梨浜町今滝、日野町中菅では生育が確認できた。県外：本州から九州まで知られている。

■**保護上の留意点**：本種は清流域の水際に生育することから水質の保全が重要となる。そのため、流域一帯の環境保護が必要である。

■**文献**：22.

執筆者：岩田和鷹・有川智己

ヤマトハクチョウゴケ ギボウシゴケ目ギボウシゴケ科
Campylostelium brachycarpum (Nog.) Z.Iwats., Tateishi & Tad.Suzuki

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



智頭町芦津 2010.7.24 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：本州～九州に知られているが、既知の産地は少ない。渓流沿いの林内の日陰の岩上に生育するが、森林伐採や林道整備などの環境の変化により、生育地や生育量が減少している。

■**特徴**：茎は高さ1-2 mm。線形の葉が茎に集まって付き、乾くと巻縮する。蒴柄は繊細で長く、白鳥の首のように湾曲する。同属のハクチョウゴケと似るが蒴歯の形状によって区別されている。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、智頭町、大山町大山と琴浦町船上山、日野町中菅から知られていた。今回の調査では、琴浦町大山滝で新規に生育を確認した。県外：秋田県以南の本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：本種は山地の森林内の比較的湿った主に火成岩上に生育する。そのため、森林の保全対策が必要である。

■**文献**：12, 15, 22, 25.

執筆者：西村直樹・木口博史・岩田和鷹・山田遼

キヌシツポゴケモドキ ギボウシゴケ目キヌシツポゴケ科
Brachydontium trichodes (F.Weber) Milde

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町烏ヶ山 1998.11.1 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：微少な蘚で国内では北海道と本州から知られているが産地は限られている。自然度の高い林内や湿潤な渓谷の岩上に生育し、樹木伐採などによる人為的環境変化に極めて弱く、簡単に絶滅する。

■**特徴**：茎の長さは1 mm以下の微小な蘚類で、葉は卵形の鞘部から細く針状に伸び、密につく。蒴柄は約2 mm、蒴は卵形で直立し、明瞭な縦の溝があり、乾くと深い皺ができる。蘚帽は釣鐘状。蘚類の中でも最も小型の種の一つで、慣れないと野外で見つけることが困難である。

■**分布** 県内：前回調査で、大山町大山と江府町烏ヶ山から知られていた。今回の調査で、江府町烏ヶ山での生育を確認し、新規に琴浦町大山滝でも生育を確認した。県外：北海道、本州。西日本からの報告は本県からのみである。

■**保護上の留意点**：湿潤な自然林内や渓谷の岩上に生育するため、樹木伐採等人為的環境の悪化に注意が必要である。

■**文献**：21, 22, 24.

執筆者：西村直樹・木口博史・岩田和鷹・山田遼

ジョウレンハウオウゴケ シippoゴケ目ハウオウゴケ科

Fissidens geppii M.Fleisch.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



広島県佐伯町産標本 nn-2765 一目盛：100μm
／撮影：西村直樹

■**選定理由**：本種は自然度の高い森林内の清流の水中または常に水のかかる岩上に生育する。そのため水質や周辺環境の変化に敏感で、近年全国的にも生育量が減少している。本県でも環境の悪化による減少が懸念される。

■**特徴**：茎の長さは3-9 mmで、4-19 対の葉をやや密に付ける。エソハウオウゴケに似るが、本種は濡れた場所に生育し背翼基部がしばしば茎に下延すること、胞子が大きいことなどで区別できる。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、鳥取市佐治町、智頭町より知られている。今回の調査で琴浦町大山滝で確認した。県外：本州・四国・九州から知られている。

■**保護上の留意点**：本種は清流域の水際に生育することから水質の保全が重要となる、そのため、流域一帯の環境保護が必要である。

■**文献**：11, 22, 23.

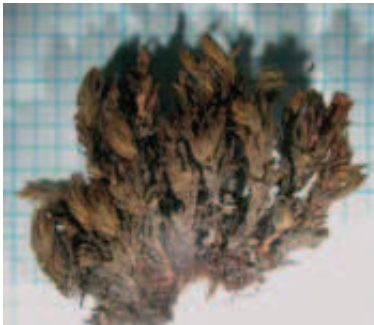
執筆：西村直樹・木口博史

イブキタチヒダゴケ タチヒダゴケ目タチヒダゴケ科

Orthotrichum ibukiense Toyama

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



正基準標本（京都大学所蔵）／撮影：秋山弘之

■**選定理由**：全国的に情報が少なく、現状が分かっていない。県内からも報告があるが、その後確認されておらず、前回・今回の調査でも生育確認が出来なかった。

■**特徴**：外見はタチバヒダゴケに似るが、より大きく、葉縁がより強く巻き、気孔が沈生し、外蒴歯がわずかに分かれる点で、容易に区別できる。樹幹に生育する。

■**分布** 県内：Noguchi (文献 17) による大山からの報告がある。県外：北陸～中国地方、隠岐。文献 17 には氷ノ山の兵庫県側にあった関宮村（現養父市）からの記録が挙げられている。

■**保護上の留意点**：樹木伐採や森林環境の維持に注意が必要。

■**文献**：17.

執筆：有川智己

コキジノオゴケ アブラゴケ目クジャクゴケ科

Cyathophorum hookerianum (Griff.) Mitt.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町金持神社 2020.9.15 /撮影：有川智己

■**選定理由**：森林伐採などによる生育環境の変化で全国的に減少が懸念されている。

■**特徴**：2 次茎は長さ 2 cm ほどの黄緑色の小型の蘚で、葉は側葉と腹葉の区別があり茎中部で長さ 2.5-3 mm、先端は短く尖る。腹葉は小型で円形または卵形、先端は細く尖る。茎の先端がしばしば尾状に尖り、その部分に線状の無性芽をつける。

■**分布** 県内：前回調査では鳥取市青谷町と日野町金持神社で確認されているが、今回の調査では金持神社の石垣に豊富に安定して生育していることが確認できている。また、有川 (文献 5) は八頭町安井宿鷺倉滝から本種を報告している。県外：千葉県以西の本州から四国・九州・琉球まで知られている。

■**保護上の留意点**：湿潤な自然林内の樹幹や岩上に生育するが、石垣の整備や樹木伐採等、人為的環境の悪化に注意が必要である。

■**文献**：5.

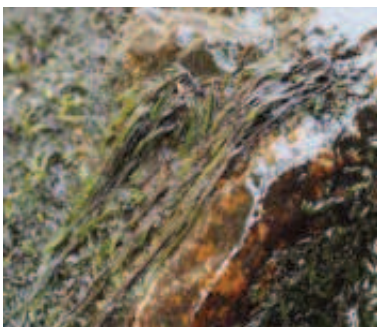
執筆：有川智己

クロカワゴケ ハイゴケ目カワゴケ科

Fontinalis antipyretica Hedw.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



智頭町芦津 2020.11.18 /撮影：西村直樹

■**選定理由**：清涼な水が緩やかに流れる水中や、傍らを流れる水で常に濡れている岩上に生育する。現在は一か所であちこちの群落が良好に生育しているが、森林伐採や河川開発により消滅する可能性が高い。

■**特徴**：山地の流水中や池の底などの岩上に生育する。植物体は茶褐色～黒褐色で、茎が長く伸びる。中央で縦に折り畳まれた葉が茎上に3列になって付く。中肋は無い。

■**分布** 県内：智頭町芦津溪。県外：北海道や東北、中央日本の高地に多い。中国地方では他に1箇所（広島県八幡高原）にのみ知られている。

■**保護上の留意点**：森林伐採河川開発などにより、水量の低下や水質汚濁が生じないように十二分に留意すること。

■**特記事項**：本種が生育することは、清涼で豊かな水が、途切れなく流れていることを示し、豊かな自然が保たれていることを証明するものである。文献14と本報告が本種の県内初報告である。

■**文献**：9, 10, 14, 20.

執筆者：西村直樹

カワゴケ ハイゴケ目カワゴケ科

Fontinalis hypnoides Hartm.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



沖の山標本 /撮影：西村直樹

■**選定理由**：河川改修や水質汚染により生育地が減少している。前回・今回の調査では生育を確認できなかったため、今後精査が望まれる。

■**特徴**：湧水などの流水中に、細長く伸びて生育する。葉は狭い卵状披針形で、長さ約4mm、折りたたまれることはない。先端は鋭く尖り、全縁。

■**分布** 県内：越智春美博士が1955年9月11日に沖の山（約800m）で、流水中に生育している本種を採集している。その採集品は、野口彰博士が同定し、服部植物研究所発行のエキシカータ (Musci Japonici Ser. 11, no. 521) に収録されている（文献18）。また、鳥取市河原町釜口で採集されたという標本もある（文献26）。今回・前回の調査では、確認できなかった。県外：北海道～本州，世界中。

■**保護上の留意点**：水が枯れたり、水質が悪化したりしないこと。

■**特記事項**：今回の調査では、同属のクロカワゴケが確認された。

■**文献**：18, 26.

執筆者：有川智己

コウヤノマンネングサ ハイゴケ目コウヤノマンネングサ科

Climacium japonicum Lindb.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



日野町本郷 2020.9.15 /撮影：有川智己

■**選定理由**：全国の山地で、自然度の高い渓谷に生育する。全国的には絶滅が危惧されていないが、県内では既知の生育地は限られている。古くから水中花やしおりとして日本人に好まれてきた、景観的にも重要な鮮類で、その動向に注目が必要である。

■**特徴**：大型の樹状になるのが特徴的な形態の鮮類で、主茎の上部が湾曲し、枝先は細くとがる。山地の林下の湿った地上に、まばらだが大きな群落を形成する。

■**分布** 県内：今回は三朝町湯谷、日野町本郷で確認できた。智頭町那岐山、若桜町水ノ山、三朝町三徳山からも報告がある。県外：北海道～九州、朝鮮、シベリア、中国、チベット。

■**保護上の留意点**：森林伐採や、大規模な園芸用の採取に注意が必要。

執筆者：有川智己

スギバシノブゴケ *Bryochenea vestitissima* (Besch.) Touw

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



若桜町大鹿滝 2020.12.6 / 撮影：本口博史

■**選定理由**：冷涼な石灰岩地に知られる種で、全国的にも極めて分布が限られる。発見・認識が難しく、全国的に報告が限られている。生育量は少なく、生育環境の変化により、容易に消滅する可能性が高い。

■**特徴**：規則的に2-3回羽状に分枝し、第二次茎にも多数の毛葉が生える。落葉広葉樹林帯の森林内の石灰岩の壁などに生育する。今回の調査では石灰質の混ざった転石上でレイシゴケとともに生育していた。

■**分布** 県内：今回の調査により若桜町大鹿滝で確認できた。県外：本州：台湾、中国、ヒマラヤ、極東ロシア。

■**保護上の留意点**：本種は湿潤な林内に生育するため、森林の保全が必要である。

■**特記事項**：本書が県内新産報告となる。

■**文献**：3。

執筆者：有川智己・本口博史

レイシゴケ *Myurella sibirica* (Müll.Hal.) Reimers

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



若桜町大鹿滝 2020.12.6 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：冷涼な石灰岩地に生育する種である。森林伐採による乾燥化、石灰岩の採掘などにより全国的に減少が懸念されている。

■**特徴**：湿潤な石灰岩上に小さな塊を作る。茎は葉を含めて幅が約0.7mmと糸状で這うように生育する。葉は長さが0.5mm以下でお椀のように凹み、葉先は急にとがり、葉縁には全周に鋭い鋸歯がある。葉身細胞の背面中央に大きな刺状の突起がある。今回の調査では石灰質の混ざった岩壁で生育を確認した。

■**分布** 県内：県内からの産地報告の文献はないが、今回の調査により若桜町大鹿滝で確認できた。県外：北海道～九州、中国、ロシア東部、ヨーロッパ、北米。

■**保護上の留意点**：本種は湿潤な林内に生育するため、森林の保全が必要である。

■**特記事項**：文献14と本報告が県内新産報告となる。

■**文献**：4, 14。

執筆者：岩田和鷹

キタイタチゴケ *Leucodon sciuroides* (Hedw.) Schwägr.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



ロシア産標本 (Bryophyta Rossica et Civitatum Collimitanearum Exiccata 230, 国立科学博物館所蔵)

/ 撮影：有川智己

■**選定理由**：全国的に情報が少なく、現状が分かっていない。県内からも報告があるが、その後確認されておらず、前回・今回の調査でも生育確認が出来なかった。

■**特徴**：二次茎は、長さ4cmほどで立ち上がる。茎には中心束があり、茎葉は卵形で2-2.6mm程度と短い。葉の翼部は全長の半分以上に達する。前葉歯は1層。しばしば無性芽（早落生の小枝）をつける。

■**分布** 県内：1918年に生駒義博氏によって採集された、「因幡」産の標本が、国立科学博物館に収蔵されており、Akiyama (文献1) により研究されているが、詳細はわからない。県外：北海道～九州、北半球の高緯度帯。

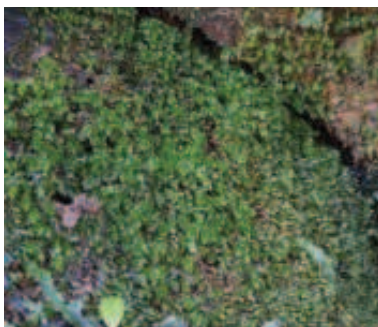
■**保護上の留意点**：森林伐採、森林環境の変化に注意が必要。

■**文献**：1。

執筆者：有川智己

コマチゴケ コマチゴケ目コマチゴケ科
Haplomitrium mnioides (Lindb.) R. M. Schust.

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



鳥取市柳谿公園 2020.11.19 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：鳥取市久松山周辺には大量に生育しており、これほどの大生育地は全国的にも希有である。そのため、現時点では絶滅が危惧されるようなものではないが、県内に他の産地は知られていない。その名のとおり美麗で景観的にも重要であり、その動向に注目が必要。

■**特徴**：配偶体は茎葉体で茎には3列に葉をつける。地上茎は高さ2 cmほどで斜上~直立し、地下茎はストロンを出して広がる。雌雄異株で生殖器官は茎頂につき、雄包葉は造精器をとりまいて花形になる。照葉樹林帯の湿った地面や倒木・腐木上に生育する。

■**分布** 県内：鳥取市久松山南麓（東町・栗谷町・上町橋谷公園）の神社や公園、森林内の土崖に生育。県外：本州~琉球、東アジア。

■**保護上の留意点**：市街地に近い遊歩道や神社境内に面した土の崖に生育しているので、崖崩れや工事によって生育地が失われるおそれがある。遊歩道整備や遊歩道脇の樹木伐採には注意が必要である。

■**文献**：2, 27.

執筆者：有川智己

カビゴケ ウロコゴケ目クサリゴケ科
Leptolejeunea elliptica (Lehm. & Lindenb.) Schiffn.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



三朝町湯谷 2019.10.10 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：森林伐採などによる生育環境の変化で全国的に減少が懸念されている。大きな環境変化が無い限り、現時点では消滅の危険はないと思われる。

■**特徴**：2次茎は長さ2 cmほどの黄緑色の小型の蘚で、葉は側葉と腹葉の区別があり茎中部で長さ2.5-3 mm、先端は短く尖る。腹葉は小型で円形または卵形、先端は細く尖る。茎の先端がしばしば尾状に尖り、その部分に線状の無性芽をつける。

■**分布** 県内：湿潤な渓谷で、生葉上に生育する。鳥取市青谷町八葉寺（新規に確認）、三朝町湯谷（文献7）。県外：本州~琉球; アフリカを除く熱帯・亜熱帯。

■**保護上の留意点**：本種が生育している灌木が伐採されることや、生育環境が乾燥化するような伐採には注意が必要。

■**文献**：7.

執筆者：有川智己

イチョウウキゴケ セニゴケ目ウキゴケ科
Ricciocarpos natans (L.) Corda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



智頭町山根 2020.12.6 / 撮影：西村直樹

■**選定理由**：里山的な水田やため池に生育するが、過剰な農薬使用、開発や転作、耕作放棄などにより全国的に減少している。

■**特徴**：長さ1-1.5 cm、幅4-8 mm、二叉状に分枝しイチョウの葉形に似た形となる。水田やため池の水面に浮遊して生育する。また、水を抜いた水田の湿土上に新たに発生する。浮遊する配偶体は緑色で腹面に濃紫色で長いボン状の腹鱗片を多数つける。陸生の配偶体は秋になると赤紫色を帯びるが、腹鱗片は無色であることが多い。

■**分布** 県内：前回調査では、湯梨浜町で確認された。また、鳥取市三津で採集された標本（1976年）がある（文献27）。今回、湯梨浜町で再確認され、新たに、智頭町山根でも確認された。県外：全国。

■**保護上の留意点**：開発や過剰な農薬使用などによる水質の悪化が生じないようにする必要がある。

■**文献**：27.

執筆者：川合啓二

ミヤマミズゼニゴケ ウロコゼニゴケ目ミヤマミズゼニゴケ科

Calycularia laxa Lindb. & Arnell

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町烏ヶ山 2020.9.20 / 撮影：木口博史

■**選定理由**：全国的に河川開発や夏季の乾燥化による減少のため、絶滅が危惧されている。前回調査では確認できなかったが、今回の調査では文献19で生育が知られていた付近で再確認することができた。実態以上に希少と思われるのではないかと指摘（文献6）がある。

■**特徴**：葉状体は茶色がかった緑色～黄緑色で、中肋部は不明瞭。緑は波状に縮れる。先端付近の裏側に不規則な歯牙をもつ腹鱗片をつける。造卵器は葉状体の背面中肋部のくぼみの中につくられ、披針形の包膜でおおわれる。

■**分布** 県内：烏ヶ山山頂より大山方面に向かう登山道上や登山道脇に生育する。県外：北海道～九州，東アジア，メキシコ。

■**保護上の留意点**：登山道整備や登山道脇の樹木伐採には注意が必要。

■**文献**：6, 8, 19.

執筆者：有川智己・木口博史

■参考文献 コケ植物

- Akiyama, H. (1988) Studies on *Leucodon* (Leucodontaceae, Musci) and related genera in East Asia. IV. Taxonomic revision of *Leucodon* in East Asia. Journal of the Hattori Botanical Laboratory, 65: 1–80.
- 有川智己 (2009) 観察ガイド：コケスポット・栗谷周辺。MUSEUM PRESS (鳥取県立博物館ニュース), 8: 4.
- 有川智己 (2015) スギバシノブゴケ. p. 153. In: 環境省 (編) レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物II (藓苔類・藻類・地衣類・菌類). ぎょうせい (東京) 580 pp.
- 有川智己 (2015) レイシゴケ. p. 185. In: 環境省 (編) レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物II (藓苔類・藻類・地衣類・菌類). ぎょうせい (東京) 580 pp.
- 有川智己 (2017) 鳥取県八頭郡八頭町で見つかったコキジノゴケの新産地. 山陰自然史研究, 14: 27–28.
- 有川智己・平岡照代・木口博史・平岡正三郎 (2006) コケ植物. pp. 131–145. In: 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編) 神奈川県レッドデータ調査報告書. 神奈川県立生命の星・地球博物館 (小田原市) 442 pp.
- 有川智己・米澤朋子・矢田貝黎明 (2017) カビゴケは鳥取県にも生育する. 藓苔類研究, 11: 299–300.
- 古木達郎 (2015) ミヤマミズゼニゴケ. p. 212. In: 環境省 (編) レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物II (藓苔類・藻類・地衣類・菌類). ぎょうせい (東京) 580 pp.
- 堀 清隆 (2011) 長野県のクロカワゴケ新産地. 藓苔類研究, 10 (5): 139–140.
- 岩月善之助・出口博則・古木達郎 (2001) 日本の野生植物コケ. 平凡社 (東京) 355 pp., 192 pls.
- watsuki, Z. & T. Suzuki (1982) A taxonomic revision of Japanese species of *Fissidens* (Musci). Journal of the Hattori Botanical Laboratory, 51: 329–508.
- 岩月善之助・立石幸敏・鈴木 直 (1999) 日本産 *Campylostelium* (ハクチョウゴケ属). ヒコビア 13: 79–85.
- 松岡成久・秋山弘之 (2019) 兵庫県新産のウロコミズゴケ (セン植物門ミズゴケ科). 藓苔類研究 12 (2): 60–61.
- 西村直樹 (2021) 鳥取県で観察した絶滅危惧コケ植物. 岡山コケの会ニュース, 51: 38.
- Nishimura, N. & Kawase, I. (1985) Mosses of Mt. Karasugasen, Chugoku district, southwesten Japan. Bull. Hirusen Res. Inst. Okayama Univ. Sci., 11: 39–45.
- 西村直樹・田中敦司・平岡照代・立石幸敏 (1998) イシツチゴケの新産地. 藓苔類研究 7: 183–185.
- Noguchi, A. (1968) Musci Japonici. VIII. The genus *Orthotrichum*. Journal of the Hattori Botanical Laboratory, 31: 113–239.
- 野口 彰・服部新佐 (1956) 日本藓類標本第11集. Journal of the Hattori Botanical Laboratory, 17: 76.
- 大西規靖・西村直樹・山口富美夫・出口博則 (1997) 烏ヶ山の苔類. 広島大学博物館研究報告, 3: 1–10.
- 坂井奈緒子 (2010) 富山県内におけるクロカワゴケの分布の状況. 富山科学博物館研究報告, 33: 9–14.
- Suzuki, T. & Iwatsuki, Z. (2006) The family Seligeriaceae in Japan. Journal of the Hattori Botanical Laboratory, 100: 469–493.
- 立石幸敏 (1996) 鳥取県内の R.D.B. 調査に伴って確認できた藓類. 岡山コケの会ニュース, 12: 8–12.
- 立石幸敏 (2012) ジョウレンホウオウゴケ. 鳥取県生物学会 (編), レッドデータブックとっとり改訂版. p. 185. 鳥取県
- 立石幸敏 (2012) キヌシッポゴケモドキ. 鳥取県生物学会 (編), レッドデータブックとっとり改訂版. p. 184. 鳥取県
- 立石幸敏 (2012) ヤマトハクチョウゴケ. 鳥取県生物学会 (編), レッドデータブックとっとり改訂版. p. 184. 鳥取県
- 鳥取県立博物館 (1973) 隠花植物目録 (茸, 藓, 苔, 地衣類). 鳥取県立博物館所蔵資料目録, 8: 1–24.
- 鳥取県立博物館 (1992) 隠花植物目録 (藓類・苔類・地衣類) 岩永標本 I. 鳥取県立博物館所蔵資料目録, 41: 1–58.
- 山本晴恵・清水寛厚 (1993) 菅野湿原. pp. 228–229. In: 鳥取県のすぐれた自然 (植物).